

增富温泉郷国民保養温泉地計画書

平成30年7月
環境省

目 次

1. 温泉地の概要	・ ・ ・ 1
2. 計画の基本方針	・ ・ ・ 2
3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策	・ ・ ・ 2
4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の 配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配 置計画及び育成方針等	・ ・ ・ 6
5. 温泉資源の保護に関する取組方針	・ ・ ・ 9
6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策	・ ・ ・ 10
7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策	・ ・ ・ 12
8. 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画	・ ・ ・ 15
9. 災害防止対策に係る計画及び措置	・ ・ ・ 16

添付

- ・ 国民保養温泉地位置図
- ・ 国民保養温泉地区域図

1. 温泉地の概要

増富温泉のある増富地域は、山梨県北西部の北杜市、日本百名山の瑞牆山（みずがきやま）と金峰山（きんぷさん）を含む秩父多摩甲斐国立公園内に位置し、平成の名水百選に選ばれた本谷川・釜瀬川が流れ、美しい渓谷、多様な動植物等に恵まれ、御神楽や獅子舞といった芸能、古民家など伝統的な里山文化を伝える地域資源豊かな地域である。



豊かな自然からは、ジビエや山菜、花豆、増富きゅうり、ミネラル豊富な米などの多彩な農畜産物に加え、これらを活かした味噌、豆腐、シミダイコンなどの伝統的な加工食品が今なお受け継がれている。

本地域を特徴づけているのは、武田信玄公が金鉦山の開発中に発見したとの伝説を持つ信玄公の隠し湯・湯治場として 400 年余も人々を癒し続け、豊富なラジウム・ラドン含有量を誇る増富温泉であり、古くは作家の高浜虚子や井伏鱒二といった文人に愛され、現在でも増富ラジウム峡観光協会（資料 1）を中心にその保全と利活用が図られ、リウマチやアレルギー疾患の改善、登山後の立ち寄り等により年間約 17 万人の観光客、うち約 3 万人の宿泊客が訪れている。

しかしながら、本地域は、地域面積約 10,038.00ha km^2 のうち 95%を森林が占める山間地域であり、昭和 30 年に 2,650 人であった人口が 450 人（平成 28 年度現在）まで急激に減少し、高齢者率も 64%に達している。交通については JR 韮崎駅からの定期バスが運行されているが、人口減少もあいまって病院や診療所、小中学校といった施設はないなど過疎化が進行し、田畑の荒廃や温泉郷の存続が懸念されている。



2. 計画の基本方針

本地域における全国各地に勝る地域資源は、放射能泉であり、約 1,000 万年前日本海側のプレートと太平洋側からのプレートに押し上げられ地盤全体が隆起した地形となっている。本地域は、秩父多摩甲斐国立公園内に位置し、山間奥深くにあって都市開発が困難であったことから、今なお、澄みきった空気・清流・太陽・森林・瑞牆山金峰山信仰の地として、また、様々な鉱物質が混合することから自然の波動（エネルギー）を発しているともされるパワースポットの地としても認識されている。

このため、増富ラジウム峡観光協会を中心に地域住民や移住等希望者が、それぞれの役割を果たしつつ連携し、世界有数のラジウム・ラドン含有量を誇る特徴ある温泉を中心に、日本古来の里山の暮らしや伝統文化といった地域資源を活かして、人々の心身を健康にする「世界に誇る和の健康保養施設の里」として、

- ・病気予防
- ・介護予防
- ・認知症予防

を軸とした健康増進手法の産業化を目指し、地域の活性化を図る。

3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策

(1) 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

増富地区の地形・地質は、約 1,000 万年前の日本海側・太平洋側からのプレート移動によって押し上げられ、その後の海底火山活動、これに伴う造山運動等を通じて生じた標高 2,230m の瑞牆山、標高 2,599m の金峰山を頂点とする山岳地形にあって、海底に堆積していた砂岩や粘板岩、これに貫入する花崗岩等からなることから侵食・風化の影響で岩と岩峰の多い独特の山容をなすとともに、多くの鉱物質が露出し、放射能泉を湧出している。また、峡谷を流下し釜無川の源流となる本谷川・釜瀬川は、平成の名水百選に選定され、これらは、秩父多摩甲斐国立公園を形成している。

森林率は 95% を超え、瑞牆山の麓は全国植樹祭の会場となり、現在はみずがき山自然公園として、独特の山容を誇り、森林環境やラドン、景勝も相まって生ずるパワースポットとして評価されている。

山間には、棚田を中心に約 3% の耕地が残り、9 つの集落が形成されているが、急速な過疎化が懸念されている。

増富地区の温泉については、歴史上、三度発見されたとされている。4 世紀ごろ、日本武尊東征の折、鉱泉を発見したとして、後日、東屋神社が建てられている。16 世紀の戦国時代には、武田信玄公が金山開発の折に発見し、川中島合戦の際の傷病兵や甲州金山採掘の鉱夫たちの怪我や病気の湯治湯として利用させたことから「信玄公の隠し湯」

といわれている。最後は、須玉町津金にあった旅館「津金楼」の初代創業者が大正3年に移転した折、米国在住の弟から増富鉱泉のラジウム含有量が多大なることを知らされ、日本最初のラジウム鉱泉として脚光を浴びた。昭和13年年には、東京大学理学博士木村健二郎氏によってラドン含有量の多量なることが再度確認され、以来、多くの学者によりその効能が研究されている（参考文献：須玉町誌）。

山村として伝統的な里山文化を伝え、お神楽や獅子舞などの芸能、古民家といった地域資源に恵まれた地域であり、豊かな自然からは、ジビエや山菜、花豆、増富きゅうり、ミネラル豊富な米などの多彩な農畜産物に加え、これらを活かした味噌、豆腐、シミダイコンなどの伝統的な食文化が今なお受け継がれている。

(2) 取組の現状

基本方針に掲げた「世界に誇る和の健康保養施設の里」の形成には、地域住民との相互連携による絆作りが不可欠である。そのため参加型交流拠点づくりとして、地元住民・温泉協会青年部・大学生・都市住民が協働して間伐・製材・組み立て等の林業体験や、増富きゅうり、花豆、大豆などの地元農産物の収穫体験等の体験・交流活動を行っている。また、若者による地元高齢者へのインタビュー等を通じた地域資源の発掘活動も行っている。そうした活動を通じて、山岳の景勝スポットや信玄公の金山開発跡地、本谷川・釜瀬川流域の植生、野生鳥獣の活動状況、史跡、伝統行事、豆腐づくりや味噌づくり文化、更には、空き家や古民家の再利用、耕作放棄地の有効活用や雇用の創出等に取り組んでいる。

①自然環境

本谷川・釜瀬川は、紅葉シーズンにはその彩りもあいまって非常に美しい景観を有しており、増富温泉や周辺集落等の水源となっているが、道路に隣接していることから観光客の投棄ゴミ等が見られ、増富ラジウム峡観光協会が中心となって、毎年、溪流の清掃活動を実施するほか、都市住民とともに注意看板を設置する啓発普及活動も行っている。



投機ゴミ



注意看板

②まちなみ

増富ラジウム峡観光協会婦人部が温泉郷を含む増富地区の景勝地や神社、仏閣、観光施設、食事処を紹介する民話ラリーマップや女将すごろくの作成等を通じた情報発信や湯治客へのサービスを行うとともに、昭和レトロ感のあるまちなみ形成を図っている。



③歴史

増富ラジウム峡観光協会青年部においては、増富温泉の神様「湯権現（ゆのごんげん）」の価値の情報発信を図るために、毎年、自分の体の調子の悪い部位の厄払いを行っている。これは、同じ部位を撫でた人形（※人の形に紙を切ったもの）を神前において燃やす行事をイベント型の「火まつり」として開催するとともに、湯権現の鳥居や祠を都市部大学生と協働して設置し、次世代への継承に努めている。



湯権現



火まつり

④文化

信仰文化としては、日本武尊が立ち寄ったとする伝説で建立された^{あづまや}東屋神社、^{みかど}御門集落の^{たてべ}建部神社、^{ひし}比志集落の比志神社のほか、幸せを見守るとされる七福神が存在する。また、信仰の山として開山された瑞牆山は、今なお多くの人々を魅了している。その他、樹齢約300年の巨木「日影のトチの木」も^{ひかげ}霊験あらたかである。標高1,000mの冷涼な気候を活かして花豆や増富きゅうり、ゴマといった高原野菜が生産されている。また、冬季の凍結・融解を利用した凍みダイコンなどの食文化があり、現在、温泉女将の会や増富地域再生協議会、二地域居住者によって継承活動が展開されている（参考資料：「奥秩父のパワースポット奥増富を歩く」（発行：増富地域再生協議会））。



花豆



凍みダイコン

(3) 今後の取り組み方策

近年の“コト消費”のニーズが高まる中、国民保養温泉地としての放射能泉の効能の発揮や国民の保養は勿論、鉱泉の発見から大正時代以降の湯治場としての発展など、長年の歴史や自然環境・景観、食文化などを活かして健康増進・癒しの提供・交流の促進を図る滞在型保養地の構築に向けて、ソフト・ハードの環境整備を推進する。

具体的には、地域の遊歩道や案内看板の設置、各温泉施設の修繕を始め、医療連携による健康増進プログラムの推進並びにこれに必要な施設整備、自然環境やまちなみ等についての取り組みの継続、歴史や文化を活かしたツーリズムの開催、これらの情報発信や都市・農村交流活動の推進を行う。

4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配置計画及び育成方針等

(1) 医師又は人材の配置の状況

増富温泉では、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師との連携のもと入浴方法等の指導を行う人材を配置しており、その氏名及び活動の状況等は以下のとおりである。また、医学的見地のアプローチとして、医療機関と連携し、専門家による温泉入浴による源泉療法を含む自然療法、食事療法に関する研究会「奥秩父増富健康増進会」を発足し、滞在型保養地構築の基盤づくりを行っている。更に、安全で栄養価の高い農作物開発に向け、山梨大学と連携して、バクテリアと沢水を利用して生物に良い水（BMW（バクテリア・ミネラル・ウォーター））を作り、光合成を利用したクロレラ水の培養や作物生育に関する研究にも取り組んでいる。

①医師

氏名等	専門分野	活動内容	配置年度
中田医院 中国医学研究所 中田 薫	外科医 漢方専門医 日本東洋医学指導医 日本温泉気候物理医学会温泉療法医	市有の増富の湯において、毎月、中国医学からみた健康教室を開催し、増富温泉の湯治客や市民に対し、生活習慣指導書「体質判断表」や食育指導書「中国医学からみた監修弁当レシピ」を配布するなどして、温泉と食事を組み合わせた効果的な健康増進方法等についての指導・助言を行っている。	H14～
奥秩父増富健康増進会	医師2人 物理学者2人 保健師1人 管理栄養士1人	医療機関とのメディカルチェックを含めた健康管理体制の整備や生活習慣予防対策食事メニューの開発、病気予防・介護予防・認知症予防のための講座の設置、自然エネルギー体験事業の実施を行っている。	H26～

②人材

資格	人数	医師との連携を含めた活動内容	配置年度
温泉利用指導者	2人	施設において健康増進及び疾病予防のための温泉利用を安全かつ適切に実施できるよう指導。また、必要に応じて中田医院の医師に相談し、その助言を指導に反映。	H8～
温泉入浴指導員	10人		
温泉療養士	3人		
整体士	1人		
鍼灸師	1人		
栄養士	2人		
食育士	7人		
食養リーダー	3人		
ウェルネス操体法インストラクター	1人		
森林ヨーガセラピーインストラクター	1人		
音楽療法士	1人		
幼児リトミック指導員 小山大地	1人		
若返りリトミック指導員セラピスト&ピアニスト	1人		

(2) 配置計画又は育成方針等

健康増進を図る施設として、増富温泉地域との連携の下、市の宿泊研修施設「みずがき山リーゼンヒュッテ」周辺において、高齢者のリハビリや子どもの基礎体力づくりに資するウォーキングコースの設定等、運動面のサポートを充実させる。また、健康科学大学と連携して温泉浴と運動に関する研究を進めるなど、高齢者向けの健康増進プログラムの開発に取り組む。

このため、(1)の医師との連携や人材の配置を継続した上で、健康指導が可能な人材を育成するため資格取得や研修参加へのサポートを行っており、資格取得者等の増員に努める。

5. 温泉資源の保護に関する取組方針

(1) 温泉資源の状況

増富温泉における主な泉質は、含放射能-ナトリウム-塩化物泉であり、現在 10 源泉が 6 施設で利用されている。

源泉名又は源泉利用施設	泉温(°C)	湧出量(l/min)	pH 値	泉質	湧出状況	所有者
不老閣 1 号源泉	18.6	0.74	6.0	含二酸化炭素・放射能-ナトリウム-塩化物冷鉱泉(低張性弱酸性冷鉱泉)	自然湧出	民間
不老閣 2 号源泉	32.3	33.5	6.6	ナトリウム-塩化物温泉(高張性中性低温泉)	自然湧出	民間
不老閣岩風呂	20.1	測定不可	6.3	含放射能-ナトリウム-塩化物冷鉱泉(等張性中性冷鉱泉)	自然湧出	民間
岩風呂 2 号源泉	20.7	1.66	5.8	含放射能・二酸化炭素-ナトリウム-塩化物冷鉱泉(低張性弱酸性冷鉱泉)	自然湧出	民間
岩風呂 3 号源泉	17.3	1.22	5.8	含放射能-ナトリウム-塩化物冷鉱泉(低張性弱酸性冷鉱泉)	自然湧出	民間
津金楼	26.0	13.7	6.3	ナトリウム-塩化物泉(高張性中性低温泉)	自然湧出	民間
八丁の湯 増富ラジウム温泉	21.8	6.0	5.9	含放射能・二酸化炭素-ナトリウム-塩化物冷鉱泉(低張性弱酸性冷鉱泉)	自然湧出	民間
金泉閣ラジウム源泉	30.5	23.6	6.3	ナトリウム-塩化物泉(高張性中性低温泉)	掘削自噴	民間
丹生の湯	22.4	6.5	6.0	ナトリウム-塩化物冷鉱泉(低張性中性冷鉱泉)	自然湧出	民間
増富の湯	27.3	123.0 (許可揚湯量)	6.3	含二酸化炭素-ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉(低張性中性低温泉)	動力揚湯	市

(2) 取組の現状

源泉	取り組み	実施主体
増富温泉全域	・源泉調査（泉温、湧出量、pH、電気伝導度、動力装置の確認、利用状況など）を5年に1度実施	山梨県

(3) 今後の取組方策

泉温や電気伝導率等に係る定期的なモニタリング体制を構築していく。

6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

(1) 温泉の利用に当たっての関係設備等の状況

温泉地	源泉数	浴用利用施設までの設備	浴用利用施設数
増富温泉	10	引湯管、貯湯槽	6

(2) 取組の現状

設備	区分	取組	実施主体
源泉	自主的	浅層地下水が混入しないよう遮水対策を施工	旅館事業者・市有施設管理者
引湯管	自主的	バルブ、ドレン等の点検を不定期に実施	旅館事業者・市有施設管理者
貯湯槽	山梨県レジオネラ症発生防止対策指針等	貯湯槽について、定期的に槽内の生物膜の状況を監視し、その除去のために清掃・消毒を実施。	旅館事業者・市有施設管理者
浴槽	山梨県レジオネラ症発生防止対策指針等	<p><浴槽水></p> <p>浴槽は常に、温泉を供給することにより溢水口より溢水させて清浄に保つ。</p> <p>原則として、毎日1回以上換水を実施し、特に汚染したときはその都度換水。</p> <p>浴槽水の消毒に当たっては、塩素系薬剤を使用し、浴槽水中の遊離残留塩素濃度を頻繁に測定して1リットル中0.2～0.4ミリグラム程度に保ち、かつ最大1リットル中1.0ミリグラムを超えないように努める。</p>	旅館事業者・市有施設管理者

		<p>毎日換水している浴槽水は年に2回以上、濁度、有機物等、大腸菌群、レジオネラ属菌の4項目の検査を実施。</p> <p><浴槽></p> <p>全ての浴槽について、塩素系薬剤による消毒を実施。浴槽水の排出後、清掃を毎日実施。</p> <p><ろ過器></p> <p>ろ過器を使用している浴槽は、1週間に1回以上、ろ過器を十分に逆洗浄して汚れを排出するとともに、ろ過器及び循環配管について適切な消毒方法で生物膜を除去し、浴槽を清掃。</p> <p><集毛器></p> <p>集毛器は、毎日清掃し、内部の毛髪、あか、ぬめり等を除去。</p>	
設備周辺	自主的	設備周辺において、清掃を毎日実施。	旅館事業者・市有施設管理者

(3) 今後の取組方策

増富温泉において、さらに温泉を衛生的に良好に保つため、各実施主体と調整しながら現状の取組を継続していくとともに、水源地を守るための啓発活動、河川の清掃活動等についても行っていく。

7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策

(1) 温泉の公共的利用の状況

増富温泉には、年間約7万人の日帰客、約3万人の宿泊客が利用するとともに、周辺の自然環境や伝統文化、あるいは瑞牆山への登山客などを含め、年間約7万人の観光客が訪れている。一方、増富地区においては、過疎化が進行し、周辺自然景観の確保に資する自然・集落・文化等地域資源の管理能力や、経営資源の確保に資する従業員等の生活環境に懸念が生じている。このため、放射能泉の効能を活かした国民の健康増進機能の強化や都市農村交流の推進等、地域資源や経営資源の保全利用への試みが行われている。

① 過去3年間の温泉の利用者数（単位：人）

温泉地	区分	26年度	27年度	28年度
増富温泉	宿泊	35,000	29,500	26,600
	日帰	69,148	66,529	61,704
合計		104,148	96,029	88,304

② 最近1年間（平成28年度）の温泉の利用者数

（単位：人）

温泉地	区分	施設数	総定員	利用者数				
				4月	5月	6月	7月	8月
増富温泉	宿泊	5	250	2,394	2,394	1,862	3,192	3,192
	日帰	1		3,881	7,928	5,931	7,814	9,137
合計				6,275	10,322	7,793	11,006	12,329

利用者数							
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3,192	2,660	2,128	1,596	1,330	1,064	1,596	26,600
5,669	7,039	5,591	2,227	2,255	1,739	2,493	61,704
8,881	9,699	7,719	3,823	3,585	2,803	4,089	88,304

(2) 取組の現状

増富温泉において、温泉の公共的利用の増進を図るため、現在行っている取組状況は以下のとおりである。

①利用促進活動

温泉地	取組	実施主体
増富温泉	温泉地の景勝地や神社、仏閣、観光施設、食事処を紹介する民話ラリーマップや女将すごろくを作成し、湯治客や観光客に対して配布を行い、温泉の楽しみ方を周知。	増富ラジウム 峡観光協会婦 人部
	増富温泉の神様「湯権現（ゆのごんげん）」の鳥居や祠を都市部大学生と協働して設置し、イベント型の行事「火まつり」を開催し、湯治客や観光客、地域住民に温泉地の価値を周知。	増富ラジウム 温泉峡観光協 会青年部
	放射能泉を利用した温泉療法や周辺遊歩道を活用した森林セラピー、自然や農業の体験活動を組み合わせたプログラムを、生活習慣病等の緩和を求める者、ひきこもりの解消や職場復帰を目指す者などに提供し、温泉地の有する癒しの効果を発揮。	(一社) 護持 の里たまゆら
	増富温泉や通仙峡、みずがき湖等を巡る増富もみじ祭りウォークを開催し、観光客等に対して地域資源の情報を発信。	(一社) 北杜 市観光協会

②環境整備

温泉地	取組	実施主体
増富温泉	温泉地内の本谷川脇の遊歩道を整備し、湯治客や観光客に対して健康増進や観光資源を提供。	山梨県
	温泉地内の本谷川の清掃活動を実施するほか、投棄注意看板を設置し、観光客に対して環境美化について啓発普及。	増富ラジウム 峡観光協会

(3) 今後の取組方策

温泉地の活性化と健康増進を図るため、現在の取組を発展させる下記事業を実施する。

温泉地	取 組	実施主体
増富温泉	<p>滞在型の温泉保養療養地を目指し、医療機関との連携を強化する。具体的には、湯治客用の診察時間等の特別枠を設置することや交通手段の確保等対象者の利便性を図るとともに、温泉地に訪れる前と最終日にメディカルチェックを受ける健康増進の仕組みを構築する。</p>	<p>(一社) 護持の里たまゆら</p>
	<p>医療費控除が可能な温泉とするため、厚生労働大臣が指定する温泉利用型健康増進施設の認定に向け、周辺環境の整備や取組実績の蓄積、運動支援士の育成等に取組む。</p>	<p>増富ラジウム峡観光協会</p>
	<p>市の宿泊研修施設「みずがき山リーゼンヒュッテ」周辺において、高齢者のリハビリや子どもの基礎体力づくりに資するウォーキングコースの設定等、運動機能の増進を図る。</p>	<p>(一社) 護持の里たまゆら</p>
	<p>安全・安心で、健康増進に資する食事が提供できる温泉地とするため、無農薬野菜や機能性の高い野草の開発を進めるとともに、国立大学法人山梨大学と連携して食育の場づくりに務める。</p>	<p>(一社) 護持の里たまゆら</p>
	<p>健康科学大学と連携し、温泉浴と自然・農業作業療法等、自然の摂理に沿った心身の健康増進プログラム提供を実践するとともに、その効果について科学的な分析評価を行い、病気の予防や痛みの緩和、ストレス解消についての仕組みの構築につなげ、地域住民の健康管理を図り、集落の持続に資する。</p>	<p>(一社) 護持の里たまゆら</p>

8. 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画

高齢者が健康的かつ活動的に、生き生きと自立した生活を送れるよう、高齢者が社会的な役割を持つことを支援する。ほかにも、高齢者等の在宅生活を支えるため、新しい生活支援サービスの創出やボランティア等の担い手養成、地域資源の開発やネットワーク化等を推進し、生活支援サービスの提供体制を構築する。また、「北杜市障害者計画」に基づき、障害者が自立して生活できるよう、創作活動や生産活動の機会の提供や社会との交流促進等の地域生活支援に取り組むとともに、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律に基づき、障害を理由とする差別的取扱いを禁止し、障害者からの社会的障壁除去の申出に対し、必要かつ合理的配慮の提供を行う。

(1) 公共の用に供する施設の状況

増富温泉における公共の用に供する施設の状況は、以下のとおりである

温泉地	区分	施設
増富温泉	公有施設	道路（県道 23 号線） 県営駐車場・公衆トイレ ふるさと交流施設すたま自然健康村増富の湯（日帰り入浴施設） みずがき山リーゼンヒュッテ みずがき山グリーンロッジ
	私有施設	旅館（5 施設）

(2) 取組の現状

増富温泉において、高齢者、障害者等に配慮したまちづくりのため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
増富温泉	公有施設	入浴施設	浴室等に手すりを設置。	北杜市
	私有施設	建築物	旅館において段差の解消を図るとともに、これが困難な浴室等に手すりを設置。	各旅館

(3) 今後の取組方策

増富温泉では、さらに高齢者、障害者等に配慮したまちづくりを図るため、実施主体と調整し、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
増富温泉	公有施設	入浴施設	特になし	北杜市
	私有施設	建築物	特になし	各旅館

9. 災害防止対策に係る計画及び措置

市と連携して、実践に則した防災訓練や避難伝達訓練、避難誘導訓練等、市民・宿泊客を安全に守るための訓練を継続実施していく。また、地域住民と連携して、AEDやデジタル簡易無線機の配備等についても充実を図る。

(1) 温泉地の地勢及び災害の発生状況

増富温泉は、四方を1,300mから1,100mの山地に囲まれ急傾斜地も多い。また、急流で知られる釜無川の源流、本谷川が温泉地の東から西に流れている。増富温泉では、平成28年、29年に小尾地域で水路災害が発生したが、大被害は生じていない。

(2) 計画及び措置の現状

増富温泉において、現在、災害防止に関し策定している計画及び講じられている措置は、以下のとおりである。

温泉地		計画又は措置	計画又は措置の概要
増富温泉		土砂災害警戒区域の指定	土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律に基づき、温泉地のうち、11箇所が土砂災害警戒区域に指定され、北杜市地域防災計画において、警戒避難体制に関する事項を策定。
		急傾斜地崩壊危険箇所の指定	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づき、温泉地のうち、2ヶ所が急傾斜地崩壊危険箇所に指定され、北杜市地域防災計画において警戒避難体制に関する事項を策定。

(3) 今後の取組方策

増富温泉において、さらに災害の防止を図るため、実施主体と調整の上、(2)の計画及び措置に基づく取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

温泉地		取組	実施主体
増富温泉	公有施設	市と連携して、防災訓練や利用客の避難訓練を実施していく。	(一社)護持の里たまゆら
	私有施設	宿泊客の避難誘導體制の確立を図る。	各施設

添付

1. 国民保養温泉地位置図



2. 国民保養温泉地区区域图

